

2006-2007
国際ロータリー第2510地区



ガバナー月信

No.4
2006
10



**GOVERNOR'S
MONTHLY
LETTER**
2006-2007
ROTARY INTERNATIONAL
DISTRICT 2510



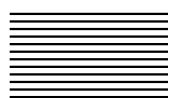
2006-2007年度 ガバナー 丸山 淳士 JYUNJI MARUYAMA

〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル3F
TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512 E-mail: rid2510@nifty.com

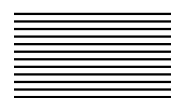
ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510



2006 - 07年度 国際ロータリーのテーマ



率先しよう



CONTENTS

ガバナーメッセージ	1
職業奉仕月間にちなんで	2
米山月間に寄せて	4
米山奨学生の紹介	5
米山学友会について	6
第8回日韓親善会議	7
ロータリー財団地域セミナーに参加して	8
WCS 委員会活動報告	10
RI3300地区派遣 GSE チームメンバー募集のお願い	11
07年～08年度 RI3300地区への GSE 派遣チームリーダー決定	12
僕らの夢乗せ宇宙まで	14
2009-2010年度ガバナー・ノミネー候補者推薦のお願い ／『第5回ロータリー全国囲碁大会』開催のお知らせ	15
2007～2008年度長期派遣青少年交換留学生追加募集の件 ／ロータリー財団寄付／米山記念奨学会寄付	16
ガバナー公式訪問	17
新入会員のご紹介	19
例会曜日・例会時間・例会場の変更について／文庫通信	20
出席報告	21
地区カレンダー（10月・11月）	22



国際ロータリー第2510地区ガバナー

丸山 淳士
(札幌真駒内 RC)

ガバナーメッセージ (職業奉仕・米山月間に寄せて)

「日本ロータリーの父」と呼ばれる米山梅吉氏の遺徳を記念して、東京ロータリークラブが「米山基金」構想を立て、国際奨学事業をはじめ、賛同する日本全国のロータリークラブにその輪が広がり、1967年(財)ロータリー米山記念奨学会が設立されました。50有余年の歴史の積み重ねと共に世界に類を見ない日本独自の多地区合同奉仕活動として発展を続けております。年間の奨学生は約800名、これまでの支援奨学生は1万3千人を超え、出身国は世界106カ国に及んでおります。日本国内では民間最大規模の奨学事業であるばかりでなく、地域のロータリークラブがスポンサーとなりそのクラブから奨学生に対してカウンセラーのロータリアンが学問以外に日本の文化や奉仕の現状を学んで貰い世界平和に大きな功績を果たしているところが他の奨学制度に見られない特徴であります。

しかしながら、昨今の日本におけるロータリー会員の減少から奨学資金が減少の一途をたどっております。この事業の更なる充実と発展に向け会員皆様の多大なご理解とご支援を改めてお願い申し上げます。

今年度の地区目標額は一人当たり普通寄付金4,000円と特別寄付金12,000円合わせて16,000円です。月割りにして一人当たり1,400円です。みんなの力が大きな奉仕につながります。一月に2,500円で財団の100ドルも米山も目標を達成できます。ロータリーは創設当初より金持ちの集まりではなく、平凡な金銭的に余裕のない経営者の集まりでした。今も当然そうであります。一人が多額の寄付を負担するのではなくみんなで少しずつ平等に負担しようではありませんか。

職業倫理を実践しているロータリアンではない企業は沢山あります。ロータリーの職業倫理と全く同じ考えの基で社会に貢献している人たちも沢山あります。しかしながら、ロータリーの職業奉仕とどこが違うのでしょうか。

ロータリーの職業奉仕は、一人での実践ではなく会員相互の深い親睦に基づいた大きな広がりを持つものであり、友情の大きな輪となった職業奉仕なのです。このことによって、一人での善行とロータリアンの善行とは大きな違いがあるのです。

その基本となることは、とりもなおさず、当たり前のことですが、例会への出席に他なりません。例会に出席し、他業種の善行を重ねている会員との深い絆を確認し合い、理解し合い、情報を交換することによってロータリーの神髄が発揮されるのです。

例会への出席は権利であり、得難い勉強の場であります。出席率が上がるということはロータリーへの理解度を表しており、さらに新入会員を惹きつけるものであります。親睦が深まれば、あうんの呼吸で奉仕活動の輪が広がります。職業倫理にも認識を新にすることが出来ます。

例会を楽しみましょう。家族もロータリアン以外の友人知人をも巻き込んでロータリーの良さをアピールしましょう。

職業奉仕の第一歩は例会への出席です。



職業奉仕委員会
委員長

砺波 寿
(札幌幌南 RC)

職業奉仕月間にちなんで

ロータリークラブは言うまでもなく、奉仕を志す人たちの集団であります。したがって職業奉仕活動も、個々の会員が各々の職業に携わる中で、思いやりと助け合いの心を発揮して、世のため人のために役立つ事が本来の目的であります。では、ロータリーの職業奉仕とは何かと問われて即座に答えることは大変難しい事ですが、「ロータリーの綱領」第2項がこの職業奉仕を端的に表現したものと言えらると思います。

職業奉仕の位置づけ

職業奉仕とは、他の団体にない奉仕分野であり、いつでも誰でも出来るもので、いわばロータリーの生活の規範をなすものだから、ロータリーの「金看板」といわれる所以であると述べられています。

しかし、ただ単に「職業奉仕」はロータリーの金看板であると言って呼びかけても、余りにも漠然としていて、なかなか実践に結びつき難く「職業奉仕は判りにくい」と云う言葉として返ってきます。

そもそも職業奉仕と云う奉仕ジャンルがあるのはロータリーだけで他の奉仕クラブ、例えばライオンズ・青年会議所などにも無く、従って職業奉仕はロータリーの特徴付けるものであると云われています。

これは単に奉仕クラブに限らず、社会奉仕には専門の行政機関があり多数の福祉専門団体もありますが、職業奉仕を扱う行政は無いとの事であります。それだけにロータリーの職業奉仕と云えば最も意義深いものを感じます。また、それ故にも職業奉仕はロータリーの独壇場であるからロータリアンたるもの、十分に関心を持たねばならぬ分野であると言えます。

超私の奉仕

1908年に一人の大学生の入会者がありました。アーサー・フレデリック・シェルドンという経営学者で自らもセールスマン養成の学校の理事者でもありました。

彼はロータリーに入って考えたことは、第一に、この会にははっきりとした旗印がない。なんとか世の中の役に立つ目標と標語が必要であると思った。

当時のシカゴは全米から集まった金の盲者達で異常な活気を呈していたが、ただ金儲け専門で商業道徳は全く乱れ、被害は消費の側で防衛しなければならないと、平気で語られていました。

しかし、全米を被う不景気には坑し難く、破産・倒産は相次ぎ、詐欺横領が横行して目もあてられぬ修羅場となっていました。そんな中でも繁盛を続けている商人もありました。それらの人々は品物も良く、しかも安く、客扱いも丁寧であるのが定石でありました。

シェルドンはこれだと思いました。ロータリアンは皆んな職業人である。社会の信用を保つことが第一であると考え、そして正しい商売をすれば必ず繁盛して、市民にも喜ばれ、ひいては世の中の役に立つ、これをロータリーの旗印にしようと、そして、その標語を考えつつ「最もよく奉仕する者・最も多く報いられる」と提唱し、やがて、これがロータリーの公式標語となり職業奉仕が確立されたのでありました。

後に、いくつかの標語として採用されたが議論を重ね、シェルドンの進言で「奉仕第一・自己第二」という意味で「超私の奉仕」とも訳されていてロータリー標語の中心となっています。

このようにしてロータリーにおける職業奉仕は次第にその輪郭が明らかとなり1922年に定められた綱領に明確に定義づけられて来たのであります。即ち、綱領第2・職業上の「道徳的基準」全ての有用なる職業の価値あることの認識、そして社会に奉仕する好機として業務を各ロータリアンにより権威あらしめることと定められている。

職業奉仕の「四つのテスト」

ハーバート・テラは1939～40年にシカゴ・クラブの会長、1954～55年度に国際ロータリー会長となりました。テラはアルミニウム製品会社の経営危機を救うため、社内の誰でもすぐ覚えらるような簡単な倫理的尺度が必要だと考へ

頭に浮かんだ「四つのテスト」を考案し「社是」として実践させたところ、好結果を修めたので、彼は他の人々にも「四つのテスト」を分かち合いました。今では「四つのテスト」は職業奉仕に欠かせないツールとなりました。

○ 真実かどうか。 ○ みんなに公平か。 ○ 好意と友情を深めるか。 ○ みんなのためになるかどうか。

ハーバート・テラはセールスから仕上げの人で、たまたま倒産寸前のアルミニウム製品会社の再建をたのまれた時、自社製品は他社のそれに比べて少しも遜色がないのに、なぜ他社は栄え我が社は潰れるのか、品に優劣がないのにこの差が生じるのは結局セールスの問題だと気がついた。

そこで、セールスマンに次の四点を強調した、即ち、我が社の製品の長所を過大に宣伝してはならぬ、他社の製品を悪く云ってはならぬ、これらが真実・公平ということである。第三にセールスは嫌われてはならぬ、いかなる場合にも即ち買う人にしては買わぬ人にも平等に親しまれ、喜ばれなければならない。

そして第四は、このセールスは良い品を安く売っているのだから世の中に役に立っているという自信と誇りを持つことだと訓えている。

ロータリアンなら誰でも「四つのテスト」の最初の言葉は「真実かどうか」を知っています。即ち仕事上で「嘘をつかない」と云うことが最も重要な事であります。

昨今、日本では新聞・テレビの報道されている各省庁で起こっている様々な問題、政治家による疑惑、そしてあらゆる企業・団体などの「嘘」から始まる不祥事の多発であります。丁度、今、以前のシカゴの街と、昨今の日本と重なって映っています。今こそ、この日本に於いても、ロータリアンたる者、率先して「四つのテスト」を実践し企業の安定を計りたいと思います。

職業奉仕と社会奉仕の差異

社会奉仕と職業奉仕の違いは、職業奉仕の定義の一つに「職業奉仕を通して、社会に奉仕する」とあります。しかし、これでは、職業奉仕は、社会奉仕の一部という錯覚が生まれます。はっきりと「職業で」となければならぬ。

例をあげると、タクシーの運転手が客を乗せ「メモ」を頼りにやっと客の行先をたずねあて送りどけたとする、これは職業奉仕である、お金を貰って客を目的地に運ぶのがタクシーの運転手の職業であるからである。

その帰り道、重い荷物を持って思案顔をしたお婆さんに声をかけたところ「行先が判らず困っている」とのこと、そこで運転手は「そこは車庫への帰り道だから乗せてあげよう」とお婆さんを無料でそこまで運んで降ろしてやったとする、これは職業奉仕でなく、社会奉仕の小さな親切である。なぜなら無料では職業ではない、料金を貰ってこそ職業である。

こんな例はたくさんあります。会員の医師が例会後一同に無料で血圧検査をしたとする、これは先の運転手の例で判る通り社会奉仕で職業奉仕ではない。更に職業奉仕だからと云っても何も自分が損をしてまで相手に儲けさせろと云うことではありません。儲けるための手段が反道徳的であってはいけないし社会全体のことを考えて公正にと云っているに過ぎないとの事であります。

「適正利潤」「道徳心の高揚」「公正な判断」この三つの基本においた経営と云う事になります。

R I 理事会は、一人ひとりのロータリアンだけでなく、クラブでも、職業奉仕の理想を地域社会に日常実践するように強調するため、毎年10月に特に職業奉仕に焦点を絞ったプログラムを行う「職業奉仕月間」と決めました。

職業奉仕は、クラブ会員ばかりでなく、各クラブの両方の責務です（手続要覧職業奉仕月間の一節）。

今月は、地区内各クラブでも職業奉仕の「フォーラム」又は「勉強会」を計画をされ、私達、地区委員会にも多くの卓話要請の依頼も来ています。地区内各クラブのロータリアンの皆様と一緒に「奉仕の実践」に努めて参りたいと思います。

ご理解ご協力をお願い致します。



米山記念奨学委員会
委員長

大石 春雄
(札幌はまなす RC)

米山月間に寄せて

ロータリー米山奨学会は、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、日本で学ぶ外国人留学生に対して奨学金を支給しています。

この米山奨学事業は、日本最初のロータリー・クラブの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。1952年に東京ロータリー・クラブで構想が立てられたこの事業は、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年に文部省（現文部科学省）の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。これまでに106カ国から13,322人の奨学生を支援し、規模と実績ともに民間で最大の留学生奨学団体となっています。

また、2004年11月に開催された RI 理事会では、米山奨学事業が日本のロータリーにおける多地区合同奉仕活動であることが新たに確認されました。

米山記念奨学会では、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、日本で学ぶ外国人留学生に対して奨学金を支給しています。

1. 目的・使命

米山奨学事業は、ロータリーの理想とする国際理解と相互理解に努め、国際親善と交流を深めるために優秀な留学生を支援し、世界平和の創造と維持に貢献することを目的としています。

米山奨学生は奨学期間中にロータリーの例会や奉仕活動に参加することによって、日本の文化、習慣などを学び、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来、世界平和の創造と維持に貢献する人物となることが期待されます。

2. 米山奨学事業の特徴

奨学金による経済的支援だけでなく、世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援が特徴です。ロータリーの豊かな人的支援を活かした世話クラブとカウンセラー制度は、奨学生や大学からの期待も大きく、その充実と強化が望まれます。

3. 寄付金

ロータリアンの皆様から頂いた寄付金は、全額奨学金として使われております。奨学金には普通寄付金と特別寄付金の2種類があります。普通寄付金は国内全クラブから各クラブで決められた金額×会員数です。特別寄付金は、任意の寄付であり会員個人、法人またはクラブからの寄付金です。今年度の丸山淳士ガバナーは、普通寄付4,000円、特別寄付金12,000円、合計16,000円を目標とし、お願いしているところです。


4. 表彰制度及び寄付金控除


2003年7月から表彰制度が改正され、特別寄付金の累計が10万円に達すると米山功労者第1回として感謝状が贈られます。第2回から第9回までマルチプル、第10回以降はメジャードナーとなります。また（財）ロータリー米山記念奨学会は「特定公益増進法人」として認定されているため、当会に対する特別寄付金は、所得税、法人税、相続税の寄付金控除対象となります。2006年度分以降、適用下限額が1万円から5千円に引き下げられ、寄付がしやすくなりました。

本年度は皆様の善意のご寄付により国内では800名、2510地区では16名の奨学生を支援しております。今後とも皆様の暖かいご支援、ご協力をお願い致します。

米山奨学生の紹介 (敬称略)


氏名		種類
性別	国籍	
大学名		学部
課程		世話クラブ


	ディッキームダキュル		
	男	インドネシア	YD
	北海道大学		医療薬学
	博士3		札幌モーニング

	姜 連 甲		
	男	中国	YM
	小樽商科大学		現代商学
	修士2		小樽

	趙 亨 燮		
	男	韓国	YM
	札幌大学		文化学
	修士2		札幌清田

	劉 赫		
	男	中国	YD
	札幌医科大学		分子・器官制御医学
	医博4		札幌西北

	オイドフ、バトバヤル		
	男	モンゴル	YD
	北海道大学		歴史地域文化学
	博士3		札幌セントラル

	クルプラントン、ティラポン		
	男	タイ	YD
	北海道大学		人間システム学科
	博士3		札幌幌南

	黄 立 婷		
	女	台湾	YM
	北海道大学		心理システム科学
	修士2		札幌大通公園

	呉 盈 盈		
	女	中国	YM
	北海道大学		教育学
	修士2		札幌東

	于 焱		
	女	中国	YM
	北海道大学		教育学
	修士2		札幌西


	李 玉 璽		
	男	台湾	YD
	北海道大学		法学政治学
	博士3		札幌北

	程 紹 強		
	男	中国	YD
	北海道大学		癌医学
	医博3		札幌南

	姜 太 煥		
	男	韓国	YD
	北海道大学		生物資源生産工学
	博士2		札幌手稲

	趙 琰 琰		
	女	中国	YM
	北海道教育大学		学校教育
	修士2		札幌はまなす

	滿 都 拉		
	男	中国	YD
	室蘭工業大学		創成機能科学
	博士3		室蘭東

	アスマリザ ビンティ アブドル ガニ		
	女	マレーシア	YM
	室蘭工業大学		応用化学
	修士2		室蘭北

	木 依 丁 熱 札 依 丁		
	男	中国	YM
	酪農学園大学		酪農学
	修士2		江別西



米山学友委員会 委員長

米谷 龍三
(札幌東 RC)

米山学友会について

米山学友会(北海道)とは、一口で申し上げますと奨学期間を終了した元米山奨学生と、現役の奨学生で組織されている親睦団体です。全国に25団体、海外では台湾及び韓国に1団体ずつ、計27団体が組織されております。因みに台湾扶輪学友会(扶輪とはロータリーを意味します)では、会員数250名を有する社団法人の認可を受ける大きな組織です。日本では約3300名、日本以外では約7600名が在籍しております。北海道内の学友会は、米山学友会(北海道)として1998年に発足し今年で8年目を迎えました。現在95名が在籍しています。会長は台湾御出身の陳省仁氏が、発足以来ずっとその職を続けております。なお、別組織として学友会の補佐役として誕生したのが、米山記念奨学委員会から分離独立した米山学友委員会です。学友会は、会員とロータリアンとの相互理解と一層の絆を深める事を目的として、様々な活動を行っております。主な5つを御紹介します。

- 1 米山学友会(北海道)の総会及び懇親会
- 2 米山学友会(北海道)親睦家族懇親会
- 3 各RCへのPR活動
- 4 米山記念奨学会主催の各種イベントの参加
- 5 機関紙「米山だより(北海道)」の発行

9月23日、台北市に於いて台湾米山学友会主催のシンポジウムが行われました。「日本留学を考える(異文化との出会い)」をテーマに、道内からはパネリストの1人として元奨学生の黄詩淳(コウシジュン・札幌真駒内RC)さんが参加しました。



直前ガバナー

塚原 房樹
(札幌東 RC)

第8回日韓親善会議

“トクト（竹島）・ヤスクニ問題の今だからこそ”

第8回日韓親善会議が9月8～9日に韓国のソウルのグランドハイアットホテルで開催されました。日本から330人、韓国のロータリアンが722人、合計1052人が参加して盛会でした。当地区は韓国の3700地区と姉妹提携を結んでいますので矢橋温郎ガバナーノミニと私の2名が参加しました。

第1日目は両国国旗の入場、趣向を凝らした歓迎セレモニー、来賓スピーチ、そして歓迎晩餐会が盛大に開かれました。

2日目の本会議は両国のロータリー現況報告から始まり、黒田正宏 PG より日本の現況報告がなされました。特別講演は李御寧氏の《じゃんけん文明論》（新潮社発刊）で、日・中・韓のこれからの在り方を道教の視点から捉えたユニークな文明論は両国のロータリアンに深い示唆を与えました。

続いての講演は韓国の PG による《朝鮮通信史》と《400年目の帰郷》で、鎖国時代の日韓関係の秘話を興味深く聞くことが出来ました。午後は今井鎮雄 PG の記念講演で、情報社会とグローバル化による社会構造の変化で相対的に下層階級が拡大して、青少年が懸命に努力しても正職員として職に就けない。今までのロータリーの青少年プログラムを考え直さなければならない。「ニート対策を等閑視しているのか。青年たちを助けよう！」と熱く語られました。

次いで《韓国女性ロータリアンの現況》について当地区と姉妹提携を結んでいる3700地区の南星姫直前ガバナー（昨年の地区大会に来賓として見えた）から報告がありました。趣旨は、以前の職業分類の数は5万程度であったが現在は20万を超えている。女性の職種も増えている。韓国では女性だけのクラブが166あり会員も5745人で女性会員は11%を占めている（因みに日本は3.5%）。女性は家事育児があり、例会時間やプログラムを適応させなければならないなどと貴重な提案がなされました。

ソウル市長は竹島・ヤスクニ問題のくすぶる今だからこそ、この日韓親善会議は大きな意義があるといわれました。その言葉がこの会議の重要性を象徴していました。2009年（矢橋ガバナー年度）の国際大会はソウルで開催されます。大会組織委員会より日本のロータリアンに対する厚い参加要請がありました。両国ロータリアンの Good Will が満ち溢れたすばらしい親善会議でした。当地区では日韓・韓日親善会議はあまり PR されていません。来年青森市で開催されますので韓国の RC と姉妹提携を結んでいる地区内クラブの方々の多数、参加を期待しています。

最後に3700地区の PG の皆さんから当地区のロータリアンの皆さんによるしくとのメッセージをお伝えして報告とします。



ロータリー財団委員会 委員長

遠藤 正之
(札幌幌南 RC・PG)

ロータリー財団地域セミナーに参加して

2006-07年度のロータリー財団地域セミナー（ゾーン1、2、3&4A）は8月6日（日）に重田、渡辺両 RI 理事、上野、片岡、小島 RRFc をはじめ、片岡財団室長、その他国内地区ガバナー、財団委員長、財団関係の地区役員総勢342名の参加で横浜パシフィコにて行われ、又翌日7日（日）には同会議センターで、ゾーン1のワークショップが行われ、当地区からも丸山ガバナー、酒井ガバナーエレクトと私が出席して参りました。

今年のセミナーはその過密なスケジュールと夏の暑さもさることながら、2日目のワークショップには、財団寄付、財団年次寄付0クラブがペーパーになって配布

されるというような厚い内容の2日間でした。

最初に渡辺 RI 理事からマルメ・コペンハーゲンの国際大会参加のお礼と報告があり、財団の現況についての報告がありましたが、田中作次ロータリー財団管理委員がシカゴへ出張中の事で、ボイド RI 会長のテーマである「Lead The Way」についての解説の後、パワーポイントによる財団の現況について触れた（パワーポイントの説明は機会を見て後述する予定です）

次いで、重田 RI 理事から、ポリオの現況について触れ、最初にポリオ・プラスは RI の特別プログラムであることの確認を述べた後、パワーポイントを使用し、ポリオ・プラス・プログラムの目標はポリオの撲滅を世界的に証明することであると、ロータリーがこれまで6億5000万ドル以上、現物、人的貢献、又ボランティアの協力によるものであると述べ、1988年には125ヶ国で35万人以上のポリオが2003年には6ヶ国784人の発生を見たのみで1994年（アメリカ）、2000年（西太平洋）、2002年（ヨーロッパ）でポリオフリーとなり、2006年ではナイジェリア、インド、パキスタン、アフガニスタンの4ヶ国の発生のみとなり、諸々の隘路もあるが、今後更なる寄付と奉仕活動を望んでいると述べた。

次いで、「韓国における寄付増進活動」と題してゾーン9、第3670地区の裴乘禧 Byung Hee Pae パストガバナーが財団寄付の実績を高めた経験を述べたが、独自の認証制度を持ち、韓国独特の寄付等に対して感動する「哲学」を披露した。勿論日本とは、全く異なるアイデアを持つての事であり、参考にはならないと感じた次第です。ちなみに、年次寄付は1人153ドル、アーチ・クランフ・ソサエティ9名、PHF 多数との事です。

寄付増進について、片岡 RRFc がより種々の寄付の増進を進めるため、寄付の中でも25000ドル以上の大口寄付者を発掘するためにアドバイザーを大口寄付コーディネーターに変更し、8名を委嘱し、当地区のコーディネーターは第2500地区の田巻明男パストガバナーがその任にあたることになった。

又、恒久基金を推進する委員会を設置し11名の委員を委嘱し、当地区の委員に第2500地区の清水幸彦パストガバナーがその任に当たることになった。又年次寄付増進コーディネーターにも8人の委員が委嘱された。当地区の委員には同じく第2500地区の小船井修一パストガバナーが委嘱された。

各寄付増進コーディネーターの責務役割については増進を図ることは勿論、年次寄付コーディネーターについては、先ず98の0クラブの解消が最大の任と言われた。

勿論 Every Rotarian, Every Year である。地区の会員も是非協力をお願いしたい。

又、最後に2003年の国際協議会でラビツア元 RI 会長が何故プログラムが必要かを述べ、そのプログラムの実績にも触れた。

次いでロータリー財団の財務とロータリーカードについて、上野 孝 RRFc からの発表があり、財団に寄付したお金はハンドブックに記したように使用されており、米国チャリティ・ナビゲーターの評価は三ツ星であり、米国ビジネス改善協会も65%のプログラムに優良の評価をしている。これらの評価、又財務については正式に発表になるとのことである。

2002-2003年度より日本でもロータリーカードが発行され、今まで10000枚発行でロイヤリティーがあったのが、2006年末に5000枚に達すれば0.3%がロイヤリティーになると改正されました。

5000枚になるために協力をお願いします。持つだけで結構、使用しなくても良いのです。当地区では7月末現在118枚の協力をいただいています。日本では2721枚です。

NPO ロータリー日本財団と公益法人については、岩井 敏ロータリー日本財団理事長から現況について次のような説明があった。即ち上記財団は2003年4月10日に設立し、その後ロータリー財団本部との調整に手間取り、実質的活動がないまま、事務態勢の整備期間とし2005年から本来の一部に着手した。法人態勢整備の作業と並行して、従来外務省、国際交流基金の配慮で適応されてきた寄付金の適用金額の拡大に努めた結果それが認められ、従来30万円以上一時払い扱い教育分野への寄付金に限り税の優遇を受けていたが、2005-2006年度から20万以上に金額基準を変更し、適用範囲を拡大することになり、多くの方に喜んでいただけたと思います。前年度の税優遇寄付金の額は149,433,276円に達しました。

公益社団法人、公益財団法人の認定を受けた法人に対する寄付金については、寄付者に所得税、法人税、相続税制の優遇措置を講ずることになるが、2008年4月1日が施行日になるのではないかと予測している。いずれにしても20万円以上の寄付については、RI 日本事務局に問合せの方が良いかもしれない。

ロータリー財団の認証（ポール・ハリス・ソサエティ、アーチ・クランフ・ソサエティ、遺贈の友の会）

上記の三つの公式認証プログラムについての説明と奨励が小島 哲 RRFC よりありました。

1) ポール・ハリス・ソサエティ

1997年より米国で毎年1000ドルの年次寄付、使途指定寄付をする人の認証プログラムであったが、正式なものではなかった。2006年7月からロータリー財団の公式認証プログラムとなり、2006年7月14日現在日本で164人のメンバーとなりました。

2) アーチ・クランフ・ソサエティ

現金の寄付の累計が25万ドルを超えるとメンバーとなる。2004年に創設されたもので、日本で8名おります。個人、法人での寄付の合計となる。

3) 遺贈友の会

1999年に承認され、2006年4月現在、世界で4828名、2億200万ドルの遺贈予定があります。これは個人または夫妻で米貨1000ドル以上の遺産の受取人としてロータリー財団を指定し、その事を財団に告げるとよいのです。日本の会員は2006年7月現在194人で、既に8人の方が亡くなりましたが、6人の遺族が誓約通り寄付しています。

最後に「財団の改正事項」について、片岡暎子財団室長より説明がなされた。その主なものは

- ・財団の資金管理、流れについて。
- ・年次寄付、恒久基金寄付、使途指定寄付についての説明がなされた。

その後、寄付記録については日本事務局では公開できず、クラブ事務局事務員はビジネスポータルにアクセスできるようになった。(勿論、クラブ会長・幹事のOKがあればのこと)

又、寄付記録の照合について Recognition Amount は恒久基金寄付は含まれていないので財団のデータとクラブの記録が異なることがあるので理解してほしい。

今年の年次寄付の目標は世界全体で1億2000万ドル、1人あたり100ドル以上となります。今年も Every Rotarian, Every Year (毎年あなたも100ドルを)

これらの寄付は教育的、人道的、ポリオ・プラス・プログラムに使用される。

国際親善奨学金の DDF 所要額の改正について

1 学年度	2007-2008年度	26,000ドル	→	2008-2009年度	23,000ドル
マルチ	2007-2008年度	26,000ドル	→	2008-2009年度	23,000ドル
3ヶ月	2007-2008年度	12,000ドル	→	2008-2009年度	10,000ドル
6ヶ月	2007-2008年度	19,000ドル	→	2008-2009年度	15,000ドル

これは従来の支給額の平均と諸経費を3%節約できる結果でもある。

人道的補助金プログラムの中で一時停止されていた個人向け補助金 (Individual Grant) の呼称がボランティア奉仕活動補助金 (Volunteer Service Grant) と変更になった。

以上が大まかな変更点であった。その後、質疑応答の時間があり、重田 RI 理事の講評のあと午後4時30分終了した。



世界社会奉仕委員会 委員長

斉藤 修弥
(室蘭 RC)

WCS委員会活動報告

「出村副委員長がチェンマイ地方の検証ツアーを行いました」

7月下旬から8月上旬にかけ地区世界社会奉仕委員会の出村知佳子副委員長が、一人でタイ国チェンマイ地方の世界社会奉仕事業の検証ツアーを行いました。

昨年度タイ国ランナチェンマイRCと室蘭東、室蘭北RCとの間で小学校にたいする浄水装置の設置が行われております。また札幌東RCとの間でもダムプロジェクトが実施されています。



これらの事業の検証のため現地を訪れた出村副委員長は、山岳地のためかなり危険な場所や川の中の視察などハードなスケジュールを無事に乗り越え、目的を達成することが出来たそうです。また、ランナチェンマイRC会長のパリンヤ女史とも面会し、有意義な話し合いを持たれたそうです。

今回の旅を終えて出村副委員長は次のような感想を寄せております。「現地を視察することにより、事業を行う本当の意味が判りました。この地域ではウォータープロジェクトとダム事業をセットにして行う必要があること、又これらの事業は子供達の教育や将来にも深くかかわっていて、単なるダム建設だけではない事を実感した」と述べております。

既に今年度もいくつかのRCからウォータープロジェクトやダム建設に対する事業申請が届いていますが、他のRCにおいても世界社会奉仕事業について積極的にご検討のほど宜しくお願いします。





GSE 委員会 委員長

岡崎 芳明

(小樽南 RC)

RI2510地区 第14回 GSE プログラム (2007-08年度) 「RI3300地区派遣 GSE チームメンバー募集のお願い」

皆様にはいつもロータリー財団事業及び GSE 活動に対しまして御理解と御支援まことにありがとうございます。

GSE (研究グループ交換) も、我が RI2510地区におきましては前年度のタイ3350地区とのプログラムで13回目を数え、いよいよ次年度 (2007-2008) GSE 交換プログラムを予定しております。RI3300地区 (マレーシア) で1 4 回目のプログラムになります。

現在交渉も順調に進んでおり、いよいよ派遣 GSE チームメンバーを募集するはこびとなりました。つきましてはぜひ皆様の会社の社員・職員やお知り合いの方などで、国際感覚に優れた有能な25歳から40歳までの職業人の方を御推薦頂きたくお願

い申し上げます。

ともすると GSE からうける印象は海外の団員を受け入れるという事が中心に思われますが、研究グループ交換と言う名前からしましても、受け入れと派遣の両方で GSE プログラムは成り立っております。

このプログラムでもっとも重要な事と言えば、地区内のまだ経験の浅い職業人の方々を海外に派遣し、ホームステイをしながら海外にて同じ職業がどんな形で行われているかという事を研修し、帰国してからはご自身の職場や地域において、国際的な視野を持ち活躍出来る職業人を育成出来る事であります。

詳細は下記に掲載して有りますので、ぜひ皆様の会社や地域の活性化の為にも派遣チームメンバー候補の方を御推薦頂きたくお願い申し上げます。

1. GSE (Group Study Exchange) とは

ロータリー財団の研究グループ交換 (GSE) プログラムは、地区内の若い職業人を海外に派遣し、そこでの生活体験を通じて職業、文化、親善などの様々な分野の国際理解を促すとともに、そこで得た体験を広く地域社会に還元できるよう支援するものです。

2. GSE プログラムの内容

職場訪問

訪問地区の、周到に計画された受入れプログラムに職業人として参加し、各 GSE メンバーの専門に応じて個別に職場を訪問し、意見を交換しながら他国におけるそれぞれの職業の実践状況を研究・調査します。

文化体験

訪問地区では地域住民との交流や文化施設の見学などを通じて生活様式、地域文化、国民性などを学び、世界の多様な文化について理解を深めます。

友好・親善

派遣団員と受け入れ地区のロータリアンが友好と善意の精神のもとに意見を交わし、また受入れ家族と生活をともにしながら互いが持っている問題や将来についての抱負を語り合い、永続的な友情と相互理解を深めます。これら有意義な異文化体験は最終的には派遣と受け入れ、両地区社会に広く貢献することになります。

3. 費用

渡航費と滞在費はロータリー財団が支出するので本人の負担はありません。

4. 派遣先

当地区では1971年以来、米国と8回、米国+カナダと1回、オーストラリアと2回、フィリピンとタイと各1回、の合計13回の GSE を実施してきました。今回はアジア地区のマレーシア3300地区に派遣して研究グループ交換を行います。

5. 派遣時期

3300地区への GSE チーム派遣は2007年10月23日頃から11月にかけての4週間を予定しています。詳細は現在交渉中ですが、相手国の地区大会が11月26~28日に開催される為、特別な事情がない限りこの時期に合わせたいと考えております。なお、マレーシア・チームの来訪は2007年10月中旬を前後とする4週間です。

6. 募集人員と応募資格

募集する派遣団員は4名です。年齢は25歳以上40歳未満の人に限ります。性別、学歴、職歴は問いませんが現在の職業に就いてから2年以上経過してはなりません。(原則として各ロータリークラブからの候補者推薦枠は1名です)。

7. 募集要項

- 1) 2510地区に居住し、応募の時点で正社員として、または専門職の仕事に (社会奉仕も含む) 2年以上従事している人
- 2) 所属団体や職場から了解を得られる人

- 3) アジアとの国際交流に強い関心をもち、協調的に行動できる人
- 4) 海外生活に順応でき、健康に自信のある人
- 5) 英会話に堪能なことを必ずしも必要としませんが、英語の基礎的な理解力をもち、異文化体験に意欲的な人
- 6) ロータリアン、ロータリアンの配偶者、ロータリアンの子ども、孫、及び退会後3年未満の元ロータリアンは資格がありません。

8. 応募方法

2510地区ガバナー事務所、GSE 委員会または各ロータリークラブに配られている申請書 [ロータリー財団グループ交換チーム・メンバー参加申請書、書式161-JA-(100)] に所定の事項を記入の上、必ずスポンサー・クラブを経由して下記あてに提出してください。「募集締切日は2006年10月31日(火)です」なお、この書式はインターネットを通じても入手できます。

9. 選考と決定

参加希望者には小論文を提出してもらい審査します。論文審査後、地区ガバナー及び地区役員と GSE 関係者等により2006年11月中旬に面接試験を行い、同月下旬までに決定します。

10. その他

応募資格や応募に関する不明の点は地区 GSE 委員会にお問い合わせください。また GSE についての詳細は地区 GSE ホームページ (<http://www.ri2510.gr.jp/GSE/01/>) をご参照ください。

11. 応募書類の提出先 (郵送可)

宛先：〒047-0021 小樽市入船1丁目7番1号
RI2510地区 GSE 委員長 岡崎 芳明
電話：0134-23-6420 FAX：0134-25-7835

07年～08年度 RI3300地区への GSE 派遣チームリーダー決定

8月より募集中でした次年度マレーシア RI3300地区への GSE 派遣チームリーダーが、チームリーダー選考委員会において決定した事をご報告いたします。

RI2510地区ロータリー財団委員会 委員長 **遠藤 正之**
RI2510地区 GSE 委員会 委員長 **岡崎 芳明**

【派遣チームリーダー】

氏名	佐原正三
生年月日	昭和11年1月3日生
出身地	東京都
現住所	函館市
所属クラブ	函館ロータリークラブ



略歴

昭和33年 東北大学経済学部卒業
昭和33年 日本銀行入行
昭和55年 日本銀行函館支店長 就任
昭和58年 日本銀行静岡支店長 就任 (日本銀行退職)
昭和59年 日本銀行電算情報局次長 就任
昭和61年 社団法人全国信用金庫常務理事 就任 (平成10年退任)

平成10年 函館信用金庫理事長 就任（平成17年理事長退任）
平成12年 函館大学特別講師（現在に至る）
平成17年 函館信用金庫顧問 就任（平成18年退任）
平成18年 共同通船株式会社特別顧問 就任（現在に至る）

ロータリー歴

函館ロータリークラブ 昭和55年11月～昭和58年4月
静岡ロータリークラブ 昭和58年5月～昭和59年11月
函館ロータリークラブ 平成10年7月～平成17年6月
函館ロータリークラブ 平成18年7月～現在に至る

公職歴

函館商工会議所常議員、函館経営者協会会長、北海道経営者協会副会長
北海道警察函館方面本部公安委員、同公安委員長を歴任

GSE でマレーシアに行ってみませんか

国際ロータリー2510地区では若い意欲ある職業人を海外に派遣して研修する事業を行っています。



資 格：25歳～40歳までの方
現在の職業について2年以上たっている方

派遣期間：2007年10月23日から4週間の予定

募集人員：4名

選 考：簡単な小論文と面接で選考します

費 用：渡航・滞在費 はロータリー財団が負担します

申し込み：近くのロータリークラブ事務所か、電話で011-614-8100（GSE 派遣担当・高橋 宏）に連絡してください。

締め切り：2006年10月末日



僕らの夢乗せ宇宙まで

滝川ロータリークラブ 会長 石黒 安雅
新世代活動推進委員会 委員長 中島 誠一

滝川ロータリークラブ本年度メイン事業として新世代活動推進委員会は子供たちに明るく豊かな社会を創る為、夢と希望を持ってほしいと考えています。その為には、我々大人が協力し、子供たちと共に夢を思い描かなくてはなりません。今回「はばたけ！未来のアストロノーツ」と題し、この事業を企画しました。



当委員会の主旨に賛同して頂いた植松専務（NPO 法人北海道宇宙科学技術創成センター HASTIC 赤平実験棟）のご協力のもと、滝川市内外の子供たち、保護者を含め190名が参加しました。

まずは植松専務からロケットのしくみ、宇宙技術の開発、幾度も失敗した事などスライドを通し学び、無重力実験も見学した。

その後、アメリカで開発されたモデルロケットの組立てに悪戦苦闘。全員の完成を待ち、打ち上げ開始。このロケットは固形燃料を使ったエンジン式で発射の失敗も有り得るとの事。イグナイター（点火装置）をつなぎ、発射ボタンを押すと大空高く打ち上がったそれぞれのロケットに目を輝かせていた。

内蔵されたパラシュートが開くと大きな歓声上がり、全員の打ち上げ終了まで2時間半を要した。

保護者の方は「親子でこのような体験はとても出来ない事です。感謝しております。夢を諦めないでほしいです。」と感想を一言。解散時には、一人々宇宙食を手渡され、子供たちは何かをやり遂げたという自信に満ち溢れた笑顔でいっぱいでした。当クラブの事業主旨は伝わったものと考えています。

最後に植松さんが「今日、参加してくれた子供たちが夢を持ち、10年後の滝川又、北海道を支える力を持つはずです。ロータリーの皆様には明日の地元産業を支える担い手をこれからも大いに育てていって下さい」と結ばれました。



2009-2010年度 ガバナー・ノミニー候補者推薦のお願い

地区ガバナー 丸山 淳士
地区ガバナー指名委員長 佐藤 秀雄

2009-2010年度地区ガバナー・ノミニー候補者として適格な会員があり、地区ガバナー指名委員会の審議を希望する地区内クラブは、12月1日必着にて、地区ガバナー指名委員長（地区ガバナー事務所気付）宛、文書（書式任意）をもってご推薦下さい。

なお、地区ガバナー・ノミニー資格条件については、国際ロータリー細則第15条第7節1項～6項及び第8節の資格条件に適していることを要します。

〔参考〕 国際ロータリー細則第13条（ガバナー指名と選挙）

国際ロータリー第2510地区 地区ガバナー指名委員会規定（1998-1999年度地区年次大会決議第8号）

『第5回ロータリー全国囲碁大会』開催のお知らせ

各ロータリークラブ会長、幹事様

拝啓 時下、益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

私ども、囲碁好きのロータリアンで結成するロータリー囲碁同好会（GPFR）日本支部は、以下の要領で「第5回ロータリー全国囲碁大会」を開催いたします。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、貴クラブの囲碁を趣味とする会員各位に大会参加のご案内をお願い申し上げます。

大会は上級者（五段以上）、中級者（二段～四段）、初級者（初段以下）の3クラス制の早碁戦です。個人戦のほか、上級者2人の成績によるクラブ対抗戦も行います。初心者、会員ご家族の参加も歓迎いたします。GPFRは台湾、韓国にも支部を持つRI認証の国際親睦グループ（国際奉仕活動）です。『ロータリーの友』本年6月号12～13ページにGPFR活動が特集して紹介されておりますので、ご覧ください。大会参加はメイクアップになります。 敬具

〔記〕

日 時：2006年10月29日（日） 09：30登録受付 10：00開会式 17：00表彰式

会 場：日本棋院会館（東京・市ヶ谷）

主 催：ロータリー囲碁同好会日本支部

共 催：第2580、2750両地区

ホスト：東京ロータリークラブ

登録料：7000円（昼食代、賞品等含む）

大会参加のお申し込みは10月20日（金）までに、氏名、地区、クラブ名、年齢、級段位を明記して、所属クラブを通じて下記のGPFR日本支部宛にFAX（03-3452-1652）でご連絡下さい。日本支部より大会参加要領および会場地図等をクラブ宛てにお知らせいたします。会場は参加人数に制限がありますので、お早め目にお申し込みをお願いいたします。

以上

RI 認証 ロータリー囲碁同好会
Go Playing Fellowship of Rotarians

日本支部 104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館1階
国際ロータリー第2580地区ガバナー事務所内

名誉会長 田中 毅 (2680地区 PDG)
日本支部長 二上 達也 (東京 RC)
幹事 太田 清文 (東京 RC)

GPFR 日本支部へのご連絡は右記の専用 FAX へお願いします FAX 03-3452-1652 HP <http://www.gpfr.org>

2007～2008年度長期派遣青少年交換留学生 追加募集の件

青少年交換委員会 委員長 **宮崎 善昭** (札幌西 RC)

2006～2007年度も3ヶ月目に入り各クラブに於かれましては、クラブ奉仕、社会奉仕、国際奉仕活動にご清栄の事と存じます。

さて、次年度の標記留学生を募集しております。今年度は諸般の事情により当初の募集時期が若干遅れましたので、更に追加の募集をいたします。国際奉仕は皆様ご承知の通りロータリー三大奉仕事業の一つで、この青少年交換プログラムは希望する地区内の高校生は誰でも、またロータリアンの子弟が応募できるプログラムです。

1年間に渡る留学によって得られる多くのものは、本人は勿論のこと、保護者、スポンサークラブにとっても様々な意味で成長の機会となると思います。

特に、これから社会のリーダーとなる新世代（留学生）にとっては、多くの人々に支えられているという実体験が価値観形成の過程で大変に貴重なものに成ると考えています。

多くのクラブが、応募をご検討いただき高校生を派遣して下さいますよう期待します。

ロータリー財団寄付

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

江別 RC	奥野 一嘉	会員 (1回)	7月 7日
札幌北 RC	灰野 篁	会員 (2回)	5月31日
札幌北 RC	長太 義雄	会員 (3回)	5月31日

ポール・ハリス・フェロー

札幌北 RC	佐藤 公	会員	6月30日
--------	------	----	-------

米山奨学会寄付

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

米山功労者

芦別 RC	小西 修身	会員 (1回)	8月21日
芦別 RC	森沢 勲	会員 (1回)	8月21日
札幌北 RC	竹原 巖	会員 (7回)	8月 8日
札幌清田 RC	若林 成治	会員 (2回)	8月30日
苫小牧北 RC	伊藤 長英	会員 (24回)	8月25日

ガバナー公式訪問

深川・妹背RC公式訪問 (7月25日)



留萌・羽幌・小平RC公式訪問 (7月26日)



小樽RC公式訪問 (8月1日)



蘭越RC公式訪問 (8月1日)



倶知安RC公式訪問 (8月2日)



余市RC公式訪問 (8月2日)



岩内RC公式訪問 (8月3日)



小樽錢函RC公式訪問 (8月3日)



札幌大通公園RC公式訪問 (8月4日)



室蘭北RC公式訪問 (8月8日)



新入会員のご紹介 (敬称略)



札幌あけぼのRC **柘植保昭**
平成18年8月4日入会



苫小牧RC **武田芳明**
平成18年8月18日入会



苫小牧RC **早坂実**
平成18年9月1日入会



苫小牧RC **田中義克**
平成18年9月8日入会



滝川RC **原田憲朗**
平成18年9月7日入会



白老RC **清水尚昭**
平成18年7月1日入会



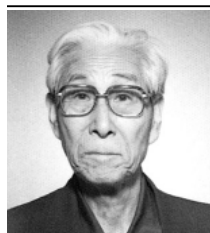
岩見沢RC **平田国久**
平成18年8月4日入会



岩見沢RC **真弓明彦**
平成18年8月4日入会



岩見沢RC **寺島善典**
平成18年9月1日入会



岩見沢東RC **野村頼房**
平成18年8月22日入会



室蘭東RC **桑野壽**
平成18年7月5日入会



室蘭東RC **白川勇**
平成18年8月9日入会

2006年10月 国際ロータリー為替レート 米貨1ドル当たり=114円

【例会曜日・例会時間・例会場の変更について】

- 江別西 RC** : 10月 7日 (土) 江別再発見の道
10月10日 (火) 移動夜間例会「体力測定例会」 18:00～ 場所: 江別市民会館
10月24日 (火) の例会を下記に変更
10月21日 (土) 移動例会 15:00～ 場所: あげぼの幼稚園
- 岩見沢東 RC** : 10月10日 (火) の例会を下記に変更
10月 7日 (土) 移動例会 12:30～ 場所: 岩見沢市奈良町 (クラブ会長別宅)
10月17日 (火) 休会 (ロータリー定款第5条第1節により)
- 白老 RC** : 10月10日 (火) の例会を下記に変更
10月14日 (土) 「2006—2007年度 R I 2510地区大会」 10:00点鐘
10月15日 (日) 「白老ロータリークラブ杯少年サッカー大会」 8:45～
場所: 町民ふれあい広場 (白老町大町)
10月24日 (火) 職場訪問例会「旭化成N & P (株) 白老工場見学」 12:30～
場所: 白老観光センター (昼食後移動)
- 小樽 RC** : 10月10日 (火) 休会 (ロータリー定款第5条第1節により)
- 室蘭東 RC** : 10月18日 (水) 職場訪問例会 場所: PCB処理センターとPCB廃棄物処理場建設現場
10月25日 (水) 振替休会
- 苫小牧北 RC** : 10月10日 (火) 休会 (ロータリー定款第5条第1節により)
10月24日 (火) 移動例会「トヨタ自動車北海道苫小牧工場見学」12:30～
場所: トヨタ自動車北海道苫小牧工場

文庫通信 (228号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

「記念講演から」

- ◎「人生を考える」 稲盛 和夫 2005 23p (「奉仕の心」)
- ◎「道草をくいながら」 岸田 今日子 2006 5p (D.2790 地区大会)
- ◎「高く遠い夢～70歳、エベレスト登頂～」 三浦 雄一郎 2005 9p (D.2540 地区大会)
- ◎「私が出会った挑戦者たち」 国井 雅比古 2005 14p (D.2550 地区大会)
- ◎「斬り口の向こうに未来が見える」 猪瀬 直樹 2005 14p (D.2670 地区大会)
- ◎「どうせやるなら精一杯、喜んで」 木村 進次 2006 14p (D.2540 地区大会)
- ◎「最新の国際情勢について」 古森 義久 2005 9p (D.2660 地区大会)
- ◎「みんなの幸せのために」 江原 啓之 2005 9p (D.2660 地区大会)
- ◎「脳は若返るか」 養老 孟司 2005 8p (D.2660 地区大会)
- ◎「バカの壁」 養老 孟司 2006 9p (D.2510 地区大会)

[上記申込先: ロータリー文庫 (コピー/PDF)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506
<http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

出席報告

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			06.7.1	06.8.31	増減	内女性	
1	深 川	4	37	39	2	2	85.42
	羽 幌	4	44	50	6	1	91.61
	妹 背 牛	3	10	10	0	0	83.30
	小 平	4	15	15	0	0	78.33
	留 萌	3	49	49	0	0	90.15
	小 計		155	163	8	3	85.76
2	赤 平	4	33	33	0	1	80.90
	芦 別	4	46	46	0	0	86.62
	砂 川	4	53	51	-2	0	97.06
	滝 川	5	100	99	-1	0	78.36
	小 計		232	229	-3	1	85.74
3	美 唄	5	41	41	0	0	93.15
	江 別	4	37	37	0	1	83.33
	江 別 西	4	33	34	1	3	88.78
	岩 見 沢	4	90	92	2	0	92.49
	岩 見 沢 東	4	35	37	2	4	87.85
	栗 沢	4	22	22	0	1	95.45
	栗 山	3	30	31	1	2	96.57
	当 別	4	37	37	0	1	71.62
小 計		325	331	6	12	88.66	
4	札 幌	4	124	129	5	0	98.92
	札幌あけぼの	3	17	18	1	1	100.00
	札幌はまなす	4	25	26	1	4	78.00
	札 幌 北	3	36	38	2	6	94.74
	札幌モーニング	4	53	52	-1	0	70.59
	札 幌 西	4	73	75	2	4	90.73
	札 幌 西 北	4	43	45	2	3	92.82
	札幌手稲	3	39	39	0	1	97.44
	小 計		410	422	12	19	90.41
5	札 幌 東	4	114	115	1	0	98.82
	札幌清田	4	25	25	0	6	100.00
	札幌幌南	3	66	67	1	0	100.00
	札幌真駒内	4	42	42	0	3	94.15
	札幌南	3	88	89	1	0	96.90
	札幌大通公園	2	14	14	0	4	85.71
	札幌セントラル	4	16	16	0	5	70.00
	新 札 幌	4	31	32	1	2	94.61
小 計		396	400	4	20	92.52	
6	岩 内	3	28	28	0	0	71.80
	倶 知 安	4	48	48	0	3	70.40
	小 樽	4	71	71	0	1	81.61
	小 樽 南	3	77	77	0	0	91.79
	小 樽 銭 函	4	24	24	0	3	80.30
	蘭 越	4	11	11	0	0	78.75
	余 市	4	41	41	0	4	83.50
	小 計		300	300	0	11	79.74

8月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,946人
当月末会員数（女性）	2,999人（97人）
増加会員数	53人
当月平均出席率	84.88%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			06.7.1	06.8.31	増減	内女性	
7	千 歳	4	68	69	1	3	82.60
	千歳セントラル	4	27	29	2	0	81.05
	恵 庭	4	45	45	0	0	88.09
	北 広 島	3	20	20	0	2	83.34
	長 沼	3	18	18	0	3	77.80
	由 仁	4	13	13	0	0	73.08
	小 計		191	194	3	8	80.99
8	え り も	5	22	22	0	0	84.54
	三 石	4	17	17	0	1	98.50
	様 似	3	18	18	0	1	73.15
	静 内	3	76	79	3	0	100.00
	浦 河	4	34	34	0	1	88.57
	小 計		167	170	3	3	88.95
9	伊 達	4	56	56	0	0	80.35
	室 蘭	4	45	49	4	0	74.48
	室 蘭 東	4	45	47	2	0	91.22
	室 蘭 北	4	38	38	0	2	100.00
	登 別	4	32	32	0	2	84.38
	洞 爺 湖	4	8	8	0	0	90.60
	小 計		224	230	6	4	86.84
10	函 館	4	89	92	3	0	77.49
	函館亀田	3	44	45	1	2	78.52
	森	4	39	39	0	0	75.00
	七 飯	4	16	16	0	0	78.00
	長 万 部	4	6	6	0	0	79.16
	函館セントラル	4	40	40	0	2	67.50
小 計		234	238	4	4	75.95	
11	江 差	5	19	19	0	0	62.00
	函館五稜郭	4	64	65	1	0	97.85
	函 館 東	4	41	45	4	4	83.14
	函 館 北	4	29	32	3	0	91.13
	上 磯	4	17	18	1	2	80.50
	松 前	4	7	7	0	0	60.00
小 計		177	186	9	6	79.10	
12	白 老	4	19	19	0	0	77.75
	苫 小 牧	3	50	51	1	1	76.72
	苫小牧東	4	30	30	0	3	72.50
	苫小牧北	4	36	36	0	2	84.56
	小 計		135	136	1	6	77.88
合 計		2,946	2,999	53	97	84.88	

※7月1日現在の羽幌RC、赤平RC、栗山RC、札幌西RC、森RCの会員数を訂正しております。

地区カレンダー（10月・11月）

10月 職業奉仕月間・米山月間			
1(日)		16(月)	
2(月)	公式訪問(札幌南 RC)	17(火)	公式訪問(苫小牧北 RC)
3(火)	公式訪問(当別 RC)	18(水)	公式訪問(札幌 RC)
4(水)	公式訪問(札幌モーニング RC)	19(木)	公式訪問(札幌西北 RC)
5(木)	公式訪問(札幌東 RC)	20(金)	公式訪問(札幌あけぼの RC)
	第7グループ IM	21(土)	公式訪問(札幌手稲 RC)
6(金)	公式訪問(札幌幌南 RC)	22(日)	
7(土)		23(月)	公式訪問(札幌北 RC)
8(日)		24(火)	公式訪問(札幌西 RC)
9(月)	体育の日	25(水)	公式訪問(札幌真駒内 RC)
	地区大会記念囲碁大会(札幌)	26(木)	室蘭 RC 創立70周年記念式典(室蘭)
10(火)		27(金)	
11(水)		28(土)	
12(木)		29(日)	
13(金)		30(月)	
14(土)	第4回 RI 指針検討委員会会議(神奈川)	31(火)	
	地区大会(札幌市民会館)		
15(日)	地区大会(ホテルライフオート札幌)		

11月 ローターリー財団月間			
1(水)		17(金)	
2(木)		18(土)	第3グループ IM(栗山)
3(金)	文化の日	19(日)	
4(土)		20(月)	
5(日)		21(火)	
6(月)		22(水)	
7(火)		23(木)	勤労感謝の日
8(水)			ロータリー財団地域セミナー(岡山)
9(木)		24(金)	ガバナー会・地区会員増強委員長合同セミナー(岡山)
10(金)		25(土)	ロータリー研究会(岡山)
11(土)		26(日)	ロータリー研究会(岡山)
12(日)		27(月)	
13(月)		28(火)	
14(火)		29(水)	
15(水)		30(木)	
16(木)			



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER
2006-2007 ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510